COLUMN

TORANOGATE

自然環境と防災を軸としたエリア全体の持続性向上

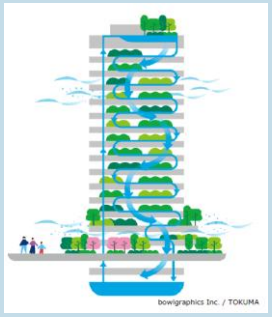
TORANOGATEは「OPEN INNOVATION GATE」をコンセプトに、虎ノ門駅と一体となった「次世代型ワークプレイス」および「官民交流の場」を目指し、2027年10月31日に竣工予定のビルです。
国際的なビジネス交流拠点としての役割に加え、自然環境との調和や災害に強い都市づくりを重視し、建物単体だけでなくエリア全体の持続可能性向上に取り組んでいます。

イメージパース（北側）

自然環境に配慮した都市型高層ビル

自然環境や都市と調和する建築計画

雨水を植栽の灌水に再利用するほか、地下の雨水ピットから屋上庭園まで水を循環させる「超高層循環水景システム」を導入予定です。屋上庭園に貯留した水は、壁面や緑化空間を通じて循環し、都市部における水循環の可視化と、緑化環境の維持、ヒートアイランド抑制への寄与を図ります。



「超高層循環水景システム」イメージ図

基準階バルコニー

環境負荷低減とスマートビル化

エネルギー使用量の可視化やデータ活用による設備最適制御により、省エネルギーと快適性を両立。将来にわたって環境負荷の低減に貢献する、持続可能な都市型ビルを目指しています。

災害に強い建築と、事業継続を支える仕組み

先進的な免震構造の採用

首都直下地震などの大規模災害を想定し、建物の揺れを大幅に低減する免震構造を採用しています。人命の安全確保と建物機能の維持により、企業活動の継続性（BCP）を支えます。また、非常用電源やバックアップ機能を整備し、災害時でも一定期間、建物機能を維持。平常時と非常時の両面で、「止まらない拠点」を実現します。

設置予定の免震部材
（天然ゴム系積層ゴム支承）
での試験の様子

エリアと連携した防災・レジリエンス強化

都市の防災力を高める拠点として

虎ノ門エリア全体の防災・減災機能向上にも貢献します。災害時には、帰宅困難者や周辺滞在者への対応など、都市機能の一部を担う存在としての役割を想定し、関係機関や地域との連携を重視しています。平常時の建物運営やまちの活動を通じて防災機能を確保することで、日常時と非常時の双方に対応可能なレジリエントな都市機能の形成に寄与します。